



創刊 1946(昭和21)年5月1日

発行所
日本教育新聞社

〒105-8436
東京都港区虎ノ門1-2-8
電話03(5510)7777(大代表)
郵便振替 00150-8-196500

©日本教育新聞社 2012

購読申し込み
Eメール kodoku@kyoiku-press.co.jp

ホームページ
http://www.kyoiku-press.co.jp

NWeb このマーク表示のある記事については、ご愛読者に限り、ホームページ上でさらに理解を深めるための資料を閲覧することができます。

生徒参加型で努力、苦勞を実感

京都府立加悦谷高校は、平成20年度から4年間「府立高等学校キャリア教育推進に関する実践研究指定校」としてキャリア教育の推進・実践に取り組んできた。1学年160人の小規模校の利点を生かした「160通りの進路指導」をテーマに、進路指導部、担任、教科担当者が緊密に連携し、粘り強く生徒一人一人に「迫る」指導を展開している。生徒に「仕掛け」「揺さぶる」ことが成長につながる。

京都府立加悦谷高校

特色のつくりかた ▼38

キャリア教育 2



生徒が面接官を務める就職模擬面接

導し、実践する。「受け身」にせず、生徒自身を参加させることで教員の努力や苦勞を実感させ、意義を高めている。特徴的な取り組みは四つ。「地域人授業」は、過疎化の

地域でも夢を持って活躍している食品会社の工場長、ホテルの料理長、建設業の自営主、福祉施設の役員などが生徒と距離感の近い教室内で、時には仕事用衣装で仕事道具を使いながら臨場感ある講義を展開する。「仕事とは」「やりがいとは」「人生とは」を生徒に問い、職業人として生きる意味を深く考えさせ、生徒があらためて地域を見直し、自分ができる地域貢献を探る機会としている。

学科教員から、小学生を教えるときの注意点を聞きながら効果的な指導法を自ら構築する。「簡単な問題でも小学生に教えるとなると、どれだけ難しいか知った」「もっと教師になりたい! という夢が強くなった」と準備の段階から教員の大変さと同時にやりがいを見いだし、教員への志望動機を高めている。「講演会(プロジェクトX)」には、多くの生徒が部活動に加入していることもあり、近年はスポーツ界で頂点に立つ著名人を招いている。「100校に1校の就職支援」は「100年に一度の大不況」に対応する決意を表し

(校長・渡利謙太郎)